

各関係機関・団体長 様

愛媛県病害虫防除所長

発生予察情報の送付について
病害虫発生予察特殊報（第 1 号）を下記のとおり発表したの送付します。

令和 5 年度 病害虫発生予察特殊報（第 1 号）

令和 5 年 12 月 5 日
愛 媛 県

病害虫名	モモヒメヨコバイ	<i>Singopora shinshana</i> (Matsumura)
作物名	モモ	
特殊報の内容	モモヒメヨコバイの発生の初確認と被害について	

1 発生経過

令和 5 年 10 月、松山市伊台地区のモモ栽培園において、葉が白化する症状が認められ（写真 1）、ヨコバイ類が多数寄生しているのが確認された。寄生するヨコバイ類を採集し、神戸植物防疫所に同定依頼した結果、他都府県で発生が認められているモモヒメヨコバイであることが確認された。

2 国内外の発生状況

海外において、中国、台湾、韓国及び北朝鮮で分布が確認されている。

国内においては、沖縄県での分布が確認されていたが、令和元年に和歌山県のウメで確認されて以降、24 都府県で発生が確認されている。

3 本種の特徴

(1) 形態

成虫の体長は、3～3.5mm、体色は黄緑色で複眼は黒く（写真 2）、頭頂部に特徴的な黒点がある（写真 3）。若齢幼虫は薄い黄色で、終齢になると黄緑色になる。

(2) 被害

成虫及び幼虫が葉を吸汁、加害する。本虫に加害された葉はカスリ状になり、多発樹では、樹全体が白化した様に見え、早期落葉する。

(3) 寄主植物

国内ではモモの他、ウメ、スモモ、アンズ、オウトウ等のバラ科果樹を加害している。海外では、上記のバラ科に加えてナシ、リンゴ、ポポー、ポプラ等の被害が報告されている。

4 防除対策

(1) 現在、モモにおいて本種に登録のある農薬はない。ウメまたは小粒核果類では、本種に登録のある農薬で防除する。

(2) 耕種的防除としては、圃場観察を良く行い、発生初期に寄生葉を速やかに除去し、適切に処分する。



写真1 葉の白化



写真2 モモヒメヨコバイ成虫

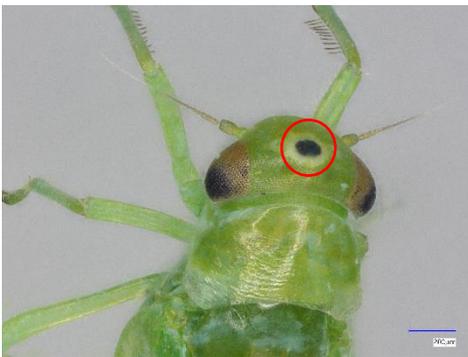


写真3 頭頂部の黒点

表 モモヒメヨコバイに登録のある主な農薬

2023年11月現在

薬剤	成分	使用倍数	使用時期	本剤の使用回数	登録内容	
					ウメ	小粒核果類
アグロスリン水和剤	シペルメトリン	2,000	収穫7日前まで	3回以内	○	×
マブリック水和剤20	フルバリネート	4,000	収穫21日前まで	2回以内	○	×
ロディー水和剤	フェンプロパトリン	2,000	収穫7日前まで	3回以内	○	×
テツパン液剤	シクラニプロール	2,000	収穫前日まで	2回以内	○	○